

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年11月14日

【四半期会計期間】 第18期第2四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)

【会社名】 株式会社ギガプライズ

【英訳名】 GIGA PRIZE CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 檀 野 敬

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区円山町3番6号

【電話番号】 03-5459-8400

【事務連絡者氏名】 管理部 木 村 賢 治

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区円山町3番6号

【電話番号】 03-5459-8400

【事務連絡者氏名】 管理部 木 村 賢 治

【縦覧に供する場所】 株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第17期 第2四半期 連結累計期間		第18期 第2四半期 連結累計期間		第17期	
		自 至	平成24年4月1日 平成24年9月30日	自 至	平成25年4月1日 平成25年9月30日	自 至	平成24年4月1日 平成25年3月31日
売上高	(千円)		964,539		865,720		1,896,745
経常利益	(千円)		37,235		22,567		61,956
四半期(当期)純利益	(千円)		23,138		16,208		18,525
四半期包括利益又は包括利益	(千円)		16,745		12,744		2,555
純資産額	(千円)		673,472		653,687		654,371
総資産額	(千円)		1,228,187		1,161,525		1,326,949
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)		18.17		12.73		14.55
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)		18.10		12.67		14.49
自己資本比率	(%)		53.4		56.3		49.1
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)		22,006		123,130		32,624
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)		25,852		56,208		70,075
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)		83,661		116,607		34,332
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)		554,819		589,524		639,210

回次		第17期 第2四半期 連結会計期間		第18期 第2四半期 連結会計期間	
		自 至	平成24年7月1日 平成24年9月30日	自 至	平成25年7月1日 平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)		13.14		76.03

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 平成25年4月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っておりますが前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループにおいて営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(その他)

当第2四半期連結会計期間において、連結子会社であるアイ・シンクレント㈱の株式の全部を同社の少数株主である菊池欣也氏に売却したことに伴い、同社は連結子会社ではなくなっております。

この結果、平成25年9月30日現在では、当社グループは、当社、親会社2社及び連結子会社1社の4社により構成されることとなりました。

なお、当第2四半期会計期間において、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等) セグメント情報」の「3. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、円高是正、株価上昇等は一時の勢いを失い、将来への不透明な状況は依然として国内外ともに根強かったものの、金利の落ち着き、消費税増税に伴う駆け込み需要、2020年オリンピック開催決定等と共に、米国におけるQE3の継続、欧州・中国経済の持ち直し等の国内外経済環境により、目先の景気は緩やかな回復を継続しております。

当社HomeIT事業が主にサービスを提供するマンション業界におきましては、今後消費税増税前の駆け込みの反動や大幅な建設増による工期遅れの影響は予想されるものの、5年ぶり高水準となった住宅着工戸数や、旺盛な物件取得意欲の影響と共に、継続的な市場における当社サービスの需要増加や、昨年来より積極的に進めていた大手顧客開拓、設備・人的投資等の結果、順調に受注・契約戸数を増加しつつ、引き続き解約数を低水準に維持させることができ、過去最大のサービス開始戸数純増を達成し、合わせて下期に向けた受注と来期以降に向けた仕込みも順調に伸長させることができました。

このため、システム開発事業の事業譲渡（平成25年7月1日完了、譲渡先：フリービット(株)）等の影響を受けた大幅な売上減や、アイ・シンクレント(株)撤退に伴った特別損失の影響等を和らげることとなり当第2四半期連結累計期間における経営成績は売上高865,720千円（前年同期比10.2%減）、営業利益24,047千円（前年同期比38.0%減）、経常利益22,567千円（前年同期比39.4%減）、四半期純利益16,208千円（前年同期比29.9%減）となりました。

当第2四半期連結会計期間より、当社のシステム開発事業を譲渡したことに伴い、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「HomeIT事業」「システム開発事業」から、「HomeIT事業」に変更してあります。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

HomeIT事業

マンションISP事業につきましては、従来からの新築分譲マンション向け並びに、小規模賃貸マンション向けのサービスが順調に推移するとともに、前連結会計年度から進めていた大手顧客との営業強化、全国展開等も確実に成果があがり、前会計年度末と比べ契約数の大幅な増加を実現いたしました。一方、引き続き回線品質向上並びにサービスメニューの強化等、利用者サービスの充実を図って

おり、解約数を低水準に維持させることができ、当第2四半期連結累計期間におけるサービス戸数は前連結会計年度末に比べ7,431戸増の47,448戸となりました。

ネットワーク事業につきましては、サーバ等のレンタルを行うホスティングサービスやネットワーク機器やサーバの運用・監視を行うマネージド・サービス・プロバイダー（MSP）サービスにおいて、継続的な顧客の囲い込みと新規取引先獲得の結果、堅調に推移いたしました。

こうした事業活動の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は、788,918千円（前年同期比8.9%増）となりました。

システム開発事業

システム開発事業につきましては、当社親会社に平成25年7月1日付けで事業譲渡をした結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は、58,097千円（前年同期比74.3%減）となりました。

その他

その他につきましては、人材派遣等を行った結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は、18,704千円（前年同期比29.6%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計につきましては、売掛金の回収等により前連結会計年度末に比べ165,423千円減少となり、1,161,525千円となりました。

負債合計につきましては、借入金の返済により前連結会計年度末に比べ164,738千円減少となり、507,838千円となりました。

純資産合計につきましては、653,687千円となりました。

この結果、自己資本比率56.3%となっております。

資金の源泉

当第2四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物は、資産合計の50.8%を占める589,524千円であり、当該残高に加え、未使用の借入枠を勘案すると、将来の予想可能な運転資金及び資本的支出等の資金需要に対して十分な財源が存在すると考えております。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前第2四半期累計期間末に比べ34,704千円増加し、589,524千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果増加した資金は、123,130千円（前年同期比101,124千円収入増）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が14,853千円、減価償却費20,849千円、のれん償却費22,461千円、売上債権の減少が65,827千円、仕入債務の減少が19,522千円になったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、56,208千円（前年同期比30,356千円支出増）となりました。これは主に、有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出46,528千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は、116,607千円(前年同期比32,946千円支出増)となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出106,012千円、配当金の支払額12,572千円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	5,173,200
計	5,173,200

(注) 平成25年2月20日開催の取締役会決議により、平成25年4月1日付で株式分割に伴う定款変更が行われ、発行可能株式総数は5,121,468株増加し、5,173,200株となっております。

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,411,000	1,411,000	名古屋証券取引所 (セントレックス)	単元株式数は100株であります。
計	1,411,000	1,411,000	-	-

(注) 1 平成25年2月20日開催の取締役会決議により、平成25年4月1日付で1株を100株に株式分割いたしました。これにより株式数は1,396,890株増加し、発行株式総数は1,411,000株となっております。

2 提出日現在の発行数には、平成25年11月1日からこの四半期報告書提出までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年9月30日	-	1,411,000	-	192,260	-	112,455

(注) 平成25年3月31日の株主名簿に記載された株主に対し、所有株式数を1株につき100株の割合をもって分割いたしました。

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
フリービットクラウド株式会社	東京都渋谷区円山町3番6号	731,000	51.80
下津 弘享	千葉県市川市	122,700	8.70
松本 泰三	東京都台東区	20,100	1.42
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	15,800	1.12
吉川 直樹	奈良県生駒郡斑鳩町	11,500	0.82
高橋 研	東京都世田谷区	10,900	0.77
佐々木 強男	東京都小金井市	10,000	0.71
佐藤 寿洋	東京都杉並区	7,900	0.56
田宮 昭	埼玉県越谷市	5,200	0.37
竹下 一秋	千葉県千葉市	4,700	0.33
計		939,800	66.60

- (注) 1 平成25年3月31日の株主名簿に記載された株主に対し、所有株式数を1株につき100株の割合をもって分割いたしました。
- 2 当社は、期末日現在自己株式を138,100株(9.79%)所有しておりますが、上記大株主からは除外していません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 138,100	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,272,900	12,729	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	1,411,000	-	-
総株主の議決権	-	12,729	-

- (注) 平成25年2月20日開催の取締役会決議により、平成25年4月1日付で1株を100株に株式分割いたしました。これにより株式数は1,396,890株増加し、発行済株式総数は1,411,000株となっております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ギガプライズ	東京都渋谷区円山町3番 6号	138,100	-	138,100	9.79
計		138,100	-	138,100	9.79

(注) 平成25年2月20日開催の取締役会決議により、平成25年4月1日付で1株を100株に株式分割いたしました。これにより株式数は1,396,890株増加し、発行株式総数は1,411,000株となっております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	639,210	589,524
受取手形及び売掛金	347,144	281,251
商品及び製品	941	-
仕掛品	11,063	4,337
原材料及び貯蔵品	7,624	7,527
その他	54,855	74,355
貸倒引当金	1,928	25,595
流動資産合計	1,058,911	931,399
固定資産		
有形固定資産	130,018	147,799
無形固定資産		
のれん	52,520	30,058
その他	57,118	31,606
無形固定資産合計	109,639	61,664
投資その他の資産	28,380	20,661
固定資産合計	268,037	230,125
資産合計	1,326,949	1,161,525
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	70,158	50,636
1年内返済予定の長期借入金	158,020	104,016
未払法人税等	30,977	6,027
資産除去債務	11,344	-
その他	85,978	74,095
流動負債合計	356,479	234,775
固定負債		
長期借入金	305,302	253,294
退職給付引当金	8,800	9,526
資産除去債務	-	8,579
その他	1,995	1,663
固定負債合計	316,097	273,062
負債合計	672,577	507,838

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	192,260	192,260
資本剰余金	112,455	112,455
利益剰余金	460,181	463,651
自己株式	114,196	114,886
株主資本合計	650,700	653,480
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	265	206
その他の包括利益累計額合計	265	206
少数株主持分	3,405	-
純資産合計	654,371	653,687
負債純資産合計	1,326,949	1,161,525

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	964,539	865,720
売上原価	650,272	532,556
売上総利益	314,266	333,164
販売費及び一般管理費	275,464	309,117
営業利益	38,802	24,047
営業外収益		
受取利息	156	201
貸倒引当金戻入額	417	-
その他	30	19
営業外収益合計	604	220
営業外費用		
支払利息	1,902	1,586
その他	269	114
営業外費用合計	2,171	1,700
経常利益	37,235	22,567
特別利益		
子会社株式売却益	-	13,461
事業譲渡益	-	21,250
特別利益合計	-	34,711
特別損失		
減損損失	-	41,305
その他	993	1,120
特別損失合計	993	42,425
税金等調整前四半期純利益	36,242	14,853
法人税、住民税及び事業税	23,197	22,120
法人税等調整額	3,731	20,071
法人税等合計	19,465	2,049
少数株主損益調整前四半期純利益	16,776	12,803
少数株主損失()	6,361	3,405
四半期純利益	23,138	16,208

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	16,776	12,803
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	31	59
その他の包括利益合計	31	59
四半期包括利益	16,745	12,744
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	23,107	16,149
少数株主に係る四半期包括利益	6,361	3,405

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	36,242	14,853
減価償却費	15,888	20,849
減損損失	-	41,305
のれん償却額	14,708	22,461
貸倒引当金の増減額(は減少)	346	23,667
受取利息及び受取配当金	156	201
支払利息及び社債利息	1,902	1,586
子会社株式売却損益(は益)	-	13,461
売上債権の増減額(は増加)	47,791	65,827
たな卸資産の増減額(は増加)	52,032	7,266
仕入債務の増減額(は減少)	13,016	19,522
退職給付引当金の増減額(は減少)	2,180	726
その他	496	11,002
小計	53,656	154,357
利息及び配当金の受取額	146	115
利息の支払額	1,935	1,800
法人税等の支払額	29,861	29,541
営業活動によるキャッシュ・フロー	22,006	123,130
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	8,115	25,600
無形固定資産の取得による支出	7,411	20,927
投資有価証券の取得による支出	14,400	-
資産除去債務の履行による支出	-	9,618
差入保証金の差入による支出	1,836	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	6,603	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	-	1,003
その他	692	941
投資活動によるキャッシュ・フロー	25,852	56,208
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	10,000	-
長期借入金の返済による支出	80,868	106,012
自己株式の取得による支出	-	690
配当金の支払額	12,619	12,572
短期借入金の純増減額(は減少)	-	3,000
リース債務の返済による支出	174	332
財務活動によるキャッシュ・フロー	83,661	116,607
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	87,508	49,685
現金及び現金同等物の期首残高	642,327	639,210
現金及び現金同等物の四半期末残高	554,819	589,524

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
(1) 連結の範囲の重要な変更 連結子会社であったアイ・シンクレント株式会社は平成25年8月14日付で当社が保有する全株式を譲渡したことにより、平成25年9月1日より連結の範囲から除外しております。これにより、当第2四半期連結累計期間においては、平成25年4月1日から平成25年8月31日までの損益計算書のみ連結しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
給与手当	85,816千円	95,310千円
貸倒引当金繰入額	70千円	23,650千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
現金及び預金	554,819千円	589,524千円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	554,819千円	589,524千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	12,735	1,000	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	12,739	1,000	平成25年3月31日	平成25年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	HomeIT事業	システム開発 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	724,235	225,866	950,101	14,437	964,539
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,000	-	7,000	-	7,000
計	731,235	225,866	957,101	14,437	971,539
セグメント利益又は損失 ()	47,612	14,442	62,054	23,252	38,802

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、派遣事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	62,054
「その他」の区分の損失	23,252
四半期連結損益計算書の営業利益	38,802

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「その他」セグメントにおいて、平成24年6月29日にアイ・シンクレント株式会社を第三者割当増資により取得しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において13,043千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	HomeIT事業	システム開発 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	788,918	58,097	847,016	18,704	865,720
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,370	-	1,370	-	1,370
計	790,288	58,097	848,386	18,704	867,090
セグメント利益又は損失 ()	66,769	7,806	58,962	34,915	24,047

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、派遣事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	58,962
「その他」の区分の損失	34,915
四半期連結損益計算書の営業利益	24,047

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第2四半期連結会計期間より、当社のシステム開発事業を譲渡したことに伴い、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「HomeIT事業」「システム開発事業」から、「HomeIT事業」に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失及びのれんの金額の重要な変動)

「その他」セグメント(子会社)において、アイ・シンクレント㈱のソフトウェアの収益性が低下したこと等に伴い、当該資産の帳簿価額の全額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期累計期間においては41,305千円であります。

また、「その他」セグメントにおいて、超過収益力の減少に伴い、のれん償却額を計上してあります。

なお、当該事象によるのれんの減少額は、当第2四半期連結累計期間において10,435千円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	18円17銭	12円73銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	23,138	16,208
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	23,138	16,208
普通株式の期中平均株式数(株)	1,273,500	1,273,293
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	18円10銭	12円67銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	4,872	5,727
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 当社は、平成25年2月20日開催の当社取締役会の決議に基づき、平成25年4月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月11日

株式会社ギガプライズ
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 北 方 宏 樹 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山 澄 直 史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ギガプライズの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ギガプライズ及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

- (注) 1．上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2．四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。